

(2)挨拶

佐藤 功 (釜石市教育委員会 教育長)

おはようございます。ようこそ、鉄と魚と文化、津波、防災の町、釜石においでくださいました。防災教育推進連絡協議会ということで、片田敏孝先生からご指導いただいております全国 8 地区の代表の皆さんがこのように釜石にお集まりくださいましたこと、心より嬉しく思います。本当にありがとうございます。片田先生は我が国防災教育指導の第一人者でございます。その第一人者である片田先生から直々にご指導いただくこの防災教育推進連絡協議会は我が国の防災教育推進のトップであろうと私は思っています。このような栄えある本会が、しかも第一回目が釜石で開催いただきますこと誠にありがたく、深く誇りに思うものでございます。



釜石市が片田先生から津波防災文化の醸成を目指してご指導いただき始めたのは今から 15 年くらい前になります。ここにおります菊池教育次長でございますが、当時も全国各地から指導の要請が多々ありました片田先生に、食い下がって釜石での指導をお願いいたしました本人であります。情熱溢れる菊池郁夫次長との出会いがなかったら、片田先生には素通りされていたことと思います。また、その後片田先生のご指導の機会を授業時間がないからと、受け入れを渋る学校が多い中、全面受け入れを示した当時の鶴住居小学校校長、釜石東中学校校長。そして、普段から信頼関係にある両校長と職員。その校長の意に則し、情熱を向けて片田教育を具現化し、子どもたちの心の中に落としとしていった当時の鶴住居小学校、釜石東中学校の教職員。見事でありました。特にも当時釜石東中学校の教頭でありました、今日実践発表いたします村上洋子先生、同じく森本晋也先生のご指導は圧巻そのものでございました。片田先生のご指導に心酔し、ご専門とする優れた道徳教育的手法で、片田防災教育を学校の全児童に浸透させ、3.11 には奇跡ともいわれる行動をとるようまで指導なされた、当時釜石小学校の加藤孔子先生。

さて、あの 3.11 釜石の子どもたちはよく逃げました。必死に教育を信じ、教職員を信じ、よく判断し、逃げとおしました。片田防災教育がなかったなら、そしてその指導を真に具現化し、支える教職員がいなかったら、例えば特にも鶴住居小学校、釜石東中学校、釜石小学校において極めて悲惨な状況になっていたであろうと強く思います。片田防災教育は多くの子どもたちの命を救いました。片田防災教育があったからあれほど助けられたと思っています。片田防災教育は逃げて命を守るという内容だけではありません。防災教育を進める中で、得られた指導の成果、例えば、優れた合唱、自立した生徒会活動、地域ボランティア活動等々が次の職員や後輩たちに受け継がれてきております。人の心を思いやり、自立して生き抜こうという真摯な心が育まれてきております。復旧・復興で疲れている大人に、親そして教職員に迷惑や心配をかけてはならぬと釜石の子どもたちは自分自身の辛かった思い・悲しい思い・怖かった思いは胸の奥深くにしまい込んで、あえて笑顔を見せ、大人を、教職員を励まします。哀れとも思われるくらい一生懸命で健気であります。登校するときの姿勢がはつらつとしています。美しさを感じるほどでございます。廊下で会ったときの挨拶がどの子も明るい。先生の話聞く姿勢が良い。学習発表会や運動会での一生懸命さが見る人に感動を与えてくれます。前を向いて積極思考でいきいき生活している子どもたちの姿に胸が熱くなります。ありがとうございますと拝むような気持ちになる毎日でございます。

今、私は防災教育を通した命の教育の大切さを改めて実感していることをございます。三陸の大地に
光り輝き、希望と笑顔が溢れる町、釜石。そのような釜石になるよう復興を目指して今、子どもたちも
大人たちも一丸になってまちづくりに、そして自分づくりに取り組んでおります。片田防災教育の成果、
そして今の子どもたちの、震災以後の釜石の子どもたちの状況をお話いたしました。挨拶に代えさせて
いただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。